



池ポチャと安全活動の意外な関係

一般社団法人 原子力安全推進協会 亀山 雅司 Masashi KAMEYAMA

1. ゴルフの池ポチャと産業の事故は同じ原因？！

ゴルフの池ポチャと産業の安全上の事故。

「避けたいと考えているのに発生した事象」という視点で見ると、両者の原因は人に起因しています。

池ポチャはなぜ発生し、どうやれば防げるのでしょうか？

そして、企業の安全活動はどうすればいいのでしょうか？

2. 池ポチャの原因

ゴルフコースに池があって「ボールを池に落とさないように気をつけなきゃ」と考えると、ボールが吸い込まれるように池に落ちる、そういう経験をした方は多いのではないのでしょうか？

実はこれ、気のせいではなくて、人間をつかさどる行動のスイッチの誤用が原因になっています。

私達の体の動きはほとんどが自動化されており、制御指示は実に高度に機能性化されています。

具体的に書きだすと下記ようになります。

①クラブを握って ②ボールをホールに向けて飛ばせ

この時、例えば①の「クラブを握る」の自動制御の中身は、指の順番、関節の曲げ方、目の動き、視覚、聴覚、触覚からの情報のフィードバック、体の姿勢……など実に様々な制御があります。ここで「意識で管理できる制御は、どれか1つ」しかないのです、残りは潜在意識に事前のプログラミング（練習）で準備しておいたものが起動することになります。②についても同様です。

3. 自動制御の落とし穴

原理に従えば、上手なプレーは優秀な自動制御に依存しており、優秀な自動制御は練習で手に入れることが可能です。また、制御はフィードバックで修正されるので「自己流で練習するより優秀なコーチの指導がいい」と

いう、極めて常識的な対策に落ち着くこととなります。

ただし、制御指示で使われる言語は私達の日常の言語と1つだけ違いがあります。

これまでのコラムで何回か紹介したように「自動制御をつかさどる潜在意識は否定形が認識できない」のです。

つまり、「①クラブを握って ②ボールを池に落とさないように飛ばせ」

は「①クラブを握って ②ボールを池に落とすように飛ばせ」の指示になって伝えられることとなります。

多くの方は経験的に「池に落とさないように」を意識すると池ポチャになりやすいことを知っています。

そこで「池のことは考えるな」と自分に言い聞かせるのですが……

察しのいい皆さんにはお分かりと思いますが、「池のことは考えるな」だと「池のことを考えろ」と指示がされてしまい、余計池に落ちやすくなってしまいます。

4. 自動制御の使い方と深刻な事態に……

原理が理解できるといろいろなことが思い当たると思います。

- ダイエット中に食べ物のことを考えないように意識すると余計食べたくなる
- 仕事を嫌だと感じないように意識すると余計嫌になる
- 危険な設備や操作方法を避けようと意識すると……
- 「お前はバカじゃない！」と子供や部下を励ますと……

使い方を間違えると深刻な事態になる場合があるし、逆に原理を意識すると、相当のことが避けられるようになります。

5. そもそもスイッチが入らない？次世代の問題

自動制御の正しい使い方が分かったとして、おそらく、次の5-10年で注目されるのは「そもそもスイッチが入らない場合がある。しかも、高確率でスイッチが入らな

い」事態の原因と対策だと思えます。

私は、「やらされ感」や「やる気」はここに起因していると考えています。

例えば、子供に「勉強しなさい」という指示を与える
と「やらされ感」や「勉強したくない」気持ちが生じて
勉強しなくなります。頭では本人も「やらなきゃ」と理
解していても、そもそもスイッチが入らなくなるのです。
また、強制的にやらせても形だけになるため、満足のい
く成果はあがらなくなります。

ではどうすればいいのか、は実は結構確立された手法
(NLP(神経言語プログラム))があります。NLPはラポー
ルでコンタクトして、その人が望む状態に連れて行く方
法を取ります。正確には「その人が望む状態」は実は指
示された状態なのですが、本人は気付かないのです。

以上を考えると「安全を守りなさい」という指示は、
私は少しまずいんじゃないかと思っています。原理から
すると「やらされ感」や「やりたくない気持ち」が生じ
て、深いところまで安全を守ろうとするスイッチが入り
にくくなるはずだからです。

6. 長時間継続できるスイッチ

人間の行動は瞬発的なものと長期に渡る継続的なもの
がありますが、安全は後者が必要だと思えます。

長期に渡ってスイッチを維持するキーワードの答えは
至ってシンプルで「楽しいと感じること」です。

ただし、「楽しい」の定義は個人の過去の体験や環境
に依存します。

多くの人がゴルフを楽しみ感じますが、私のように
「苦痛」と感じる人もいます。

苦痛を感じていると練習してもさほど上達もせず、長
期間続けることは難しくなります。

逆に、仕事や安全活動は必ずしも「苦痛」ではなく、「楽
しさ」を感じることも可能です。

「えー、苦痛以外はないだろう」と考えている人は、
あなたの人生の経験と環境の中ではそう感じる因果関係
があった、ということなのです。

ちなみに何をどう感じても、それ自体はただの事実
にすぎず、良いものとか悪いものはありません。事実をも
とに目的に沿った対策を考えればいいだけです。

いずれにせよ、「楽しい」をどう具体的な仕組みに落
とし込むかがキーになります。

そこで、昔から使われているのが「点数化」つまり、
スコアをつけるということです。

例えば、ゴルフはスコアをつける方が楽しいですよ

ね？

この辺りは目的設定と目的達成のストラテジーも重要
な役割を果たします。会議の効率化や成果、子供の教育
などにも役立ちますので、またの機会に述べたいと思
います。

7. 楽しいか苦痛かはスコアの表現で決まる

品質や状態の改善は、基本的にスコアを使います。

この時、スコアの表現で同じ事象が「苦痛」になつた
り「楽しさ」になつたりします。

「不具合の数を数える」は苦痛を感じます。また、「不
具合」を意識して再発を誘導してしまいます。

例えば、ゴルフのスコアは基本的に「いいスコア」が
見えるようになっています。

もし、「池ポチャやOBの数のスコア（ゼロに近いと
勝ち）」だったら、スコアを見るのが嫌だと感じませ
んか？

では、安全活動のスコアは何をつければいいでしょ
うか？

「不適合の数がゼロ（不適合を数える）」を目指すス
コアはどうも良くないですね。

苦痛を感じる上に不適合を誘導する傾向がでてしま
います。

「適合数が100%」だと楽しそうです。また、不適合
が起こっても自主的に適合に復帰させる対策が取られた
ものを「適合状態」に数えるのも楽しいんじゃないか
と思います。

これらの「成功の数を数える」は成功を意識して誘導
する効果もめます。

同様に、安全活動以外のパフォーマンス・インジケ
ータの類も、できればポジティブな設定がいいんじゃない
かと思います。

8. 例えば、こんな対策も

スコア意外に楽しさとリンクする方法を幾つか考
えてみましたので以下に記載します。時代の流れは③、④
のかな、と感じます。仕事が楽しく効率的に行われる
のに適した方法です。

- ① 報奨金を支給する。ただし、昔は報奨金がそれなり
に効果のある方法でしたが、逆に報償金額程度に成
果をディスカウントしてしまう可能性があります。
あまり今の時代に合わないかも知れません。
- ② 区切りごとのパーティーで「安全活動＝楽しい」体
験をつくる。バブルの時代は仕事終わりの打ち上げ

が実にうまく機能していました。

- ③ Dr. ディマティニーが行っていた個人の目標と会社の目標を表面化させて一致させる方法。仕事が個人の目標と同じだとか、仕事が趣味と化せば自然に行動を起します。私はベストな方法の一つと思っています。
- ④ いつの時代も価値の高い「承認」を活用する方法。ただし、条件付の承認（安全を守ってくれる君は素晴らしいとかの表彰制度）はアルフレッド・アドラーがいう将来、人格や組織に崩壊を引き起こす可能性があります。褒めるとしたら、気づき、行動する姿勢そのものにリンクさせるのが望ましく、これは無条件の承認に近いように思います。また、各自のリーダーシップの推進とも整合しています。

9. まとめ

如何でしょうか？

私達は対策を考えるとき、意志と正論で解決する方法を検討することが多いのですが、現実にはあまり機能していないことも多いように思います。

これからは、潜在意識に起因する「行動のスイッチと自動制御」の視点で、行動の駆動力そのものの対策を考えてみるのが効果的かもしれません。

(平成 29 年 8 月 24 日)

著者紹介



著者：亀山 雅司
所属・役職：原子力安全推進協会
支援計画部 支援計画 G
専門分野：機械設備の保全技術の開発
と現実化、心理コーチング

“私論・試論・議論”

編集委員長 高木 敏行

本学会員の技術者からの声で、この欄を開設することにした。原子力の技術者には、いかにまじめな人間が多いか。技術に率直な保全に係る人が多いということを強く感じる。様々な意見、考えを持つ人がいるが、なかなかそれを披露して、議論する場がない。この場を意見の交換、議論の場として、提供する。投稿したい、発言したい、という声に応えたい。会員の様々な角度からの意見、発言に期待する。

2 ページ以内、半ページでも構いません。誹謗中傷以外の意見であれば、基本的に採用します。事務局にメールで投稿ください。

投稿先：日本保全学会 『保全学』事務局

〒110-0008 東京都台東区池之端 2-7-17 井門池之端ビル 10 階

電話：03(5814)5430 FAX: 03(5814)6705 E-mail: secretariat@jism.or.jp